# 栽培難しく幻の花…「青いケシ」、高原で見頃

長野県大鹿村の大池高原（標高約１５００メートル）にある中村農園で、青いケシの花が見頃を迎えている。

　青いケシは、ヒマラヤ原産の多年草メコノプシス。夏でも気温が２５度を超えず、適度な雨が必要など、栽培が難しいことから、幻の花とも言われている。

　切り花農家で園主の中村元夫さん（７３）が２２年前に種をまき、今では５０００株以上に増えた。今年は雪が少なかった影響で、咲き始めが例年より１０日ほど早く、咲き方にバラツキがあるが、７月上旬まで楽しめそうだという。愛知県刈谷市から訪れた女性（６７）は「色に微妙な濃淡があって神秘的」と話していた。入園料は５００円。